
緩和ケアの現場から：医療法人 どちらペインクリニックの緩和ケア

理事長 土地邦彦

1. 緩和ケアとは

この世に生のあるものは、いつか必ず死にます。
個々の生は死にますが、命そのものはつながります。
数十億年にわたり連綿とつながった命は
奇跡の確率でひとり人間を生み出しました。
そう、あなたです。

そのあなたも、いつか死にます。必ず死にます。
しかし、あなたの DNA は伝えられ、命はつながります。

死は、誰にも訪れます。
私たちは死についてよく知りません。
死は痛いものですが？
死は全てを奪い去るものですか？
あるいは、死は安らかな眠りでしょうか？

死について、想像することしかできません。

私たちは、多くの人々の人生最後の時期をお世話させていただきました。
私たちは、それらの人々の死に立ち会いました。
その人々は安らかな慈母に抱かれた赤子の寝顔のような表情を見せて
旅立たれました。

ですから、死は怖いものなどと 私たちは思いません。
そうしたら旅立ちを支援するのが、私たちの緩和ケアです。

2. 玉穂ふれあい診療所の緩和ケア

玉穂ふれあい診療所は 19 床の有床診療所です。
病院と違って家庭的な雰囲気です。医療ができます。

病院がシティホテルやビジネスホテルで、有床診療所は旅館やペンションといった感じでしょうか。

玉穂ふれあい診療所には温泉もあります。お隣「パンセ」の内藤さんのご苦労の賜物ですが、その温泉を分けてもらっています。ですから温泉旅館あるいは湯治宿といった感じです。

院長は親仁で、婦長が女将です。

玉穂ふれあい診療所は家庭と同じように生活の場である、と考えています。食事、お風呂、睡眠を大切にしています。「ふろ、めし、ねる」しか言わないご亭主がいると笑い話にありますが、これ、生活の基本ですよ。

玉穂ふれあい診療所は家族を大切にします。小さな子供たちが廊下やホールを走り回っています。子供はみんなを元気付けます。命のつながりが魂に木霊します。

玉穂ふれあい診療所は自然の中にあります。病室の引き戸を開けると、ベランダを経て庭と畑につながります。その外は田圃です。鳥や蝶々がよく来ます。夜は蛙が鳴きます。

こんな環境の中で、家族と共にゆっくり過ごしていただくのが私たちの医療です。もちろん、がんの痛みや嫌な症状は最新のくすり（オピオイドなど）を駆使して取りますからご安心ください。

玉穂ふれあい診療所は国の認定する「緩和ケア病床」ではありません。この「緩和ケア病床」には癌とエイズの終末期の患者しか入れません。私たちの施設はそれではないので、癌以外の病気の方も入院できます。

玉穂ふれあい診療所の入院はがん末期の患者さんを主な対象にしていますが、それ以外の病気で、在宅で過ごしていて少し崩した体調を早く直したい方なども受け入れています。また、癌の患者さんでの痛みなどの症状コントロールが上手いき、家で過ごしたい方はどんどん在宅医療に変わっていただいております。在宅医療を支える有床診療所というのも玉穂ふれあい診療所のモットーの一つです。

玉穂ふれあい診療所では、一緒に働く看護師、アシスタント（ヘルパー）を募集しています。

3. 医療どちペインクリニックと在宅医療

1992年6月にどちペインクリニックが発足して以来、私たちはペインクリニック（疼痛治療）と在宅医療をその診療の柱にしてきました。その医療活動は在宅緩和ケア（在宅ホスピス）につながり、多くのがん患者さんたちを在宅で看取ってきました。

人は、生まれ、親に育てられ、独立し、結婚し、家庭を持ちます。自宅にはいろんな思いがあるでしょう。その生活の場で、人生の終焉を迎えることはとても素敵なことです。

病院は、病んだ人がまた元気になるために一時いくところですが、病院は生活をするところではありません。

がんを患い治癒する見込みの無くなった人や、老齢と共に体力が落ちてきた人に必要なのは、病院での「治療」でなく、自宅での「生活」だと思います。その「生活」を支える医療が在宅医療です。

この在宅医療を一生懸命やってきたら、玉穂ふれあい診療所も必要になったのです。

在宅を続けるためにちょっと入院が必要な人、いろんな事情から在宅が無理な人、そんな方々に玉穂ふれあい診療所での「生活」を提供いたします。

私たちは、玉穂ふれあい診療所、昭和いたみの診療所、昭和訪問看護ステーション、田富訪問看護ステーション、玉穂訪問看護ステーションで在宅医療を提供しています。また、県内すべての病院、開業医の先生方、訪問看護ステーションと連携しています。

医療法人どちペインクリニックでは、訪問看護師を募集しています。

4. 医療法人どちペインクリニックの外来医療

玉穂ふれあい診療所と昭和いたみの診療所で外来診療を行っています。

(1) ペインクリニック（認定医）

痛みなどの病気を神経ブロックという方法で治療します。よく使われる神経ブロックは星状神経節ブロックと硬膜外ブロックです。

星状神経節ブロックは頸部の交感神経節を麻酔する方法です。

硬膜外ブロックは局所麻酔の方法ですが、知覚神経と一緒に交換神経も麻酔

します。

交感神経が麻酔されると、その神経が支配する領域の血管が拡張し、血液循環が抜群に良くなります。その結果、人間本来の持つ治癒力が強められ、痛みの原因となっている病変そのものが改善されます。

神経ブロックは手術やくすりと異なる第3の治療法です。

帯状疱疹の痛み、椎間板ヘルニアなどの腰下肢痛、頸部背部上肢の痛み、頭痛、顔面痛など各種の痛みが対象です。今までいろいろ治療をうけてきたが良くならない方は、ぜひ一度受診してみてください。

また、顔面神経麻痺、突発性難聴、めまいなどもペインクリニックの対象です。

(2) 内科

高血圧症、糖尿病、高脂血症、抗尿酸血症などの生活習慣や慢性疾患の日常的な健康管理をします。風邪ひき、腹痛や下痢などの急病を診ます。

診察や検査の結果、より詳しい検査などが必要な方は、相談の上適切な病院に紹介します。

家庭医、かかりつけのお医者さんとしての役割を大切に考えています。

(3) 漢方医学（専門医）

漢方医学的な診断に基づく漢方処方を行っています。すべて保険診療です。漢方エキス剤を院外処方を出しています。漢方は全科の相談に応じます。

(4) その他

内科、外科、その他の一般的な処置を行います。擦り傷、切り傷、やけど、虫刺されなどは、身近な医療機関でどうぞ。

(5) 検診

企業検査をお受けします。産業医についてもご相談ください。

(6) 検査危機

レントゲン撮影、心電図、ホルター心電図、超音波（エコー）、骨密度測定、めまい検査、尿・血液検査など

5. 有床診療所のあまりにも安い入院料と皆さまのご支援のお願い

国の「社会的入院」撲滅で医療費削減をはかるという政策により、有床診療所の入院費は低く抑えられました。その結果、経営的に成り立たなくなった有床診療所はどんどん入院ベッドを廃止し無床診療所になったのです。新しい開業医もみな無床診療所です。

健康保険で定める入院費は入院日数が長くなるとどんどん下がります。診療

所では1週間単位で安くなります。また、患者さんと看護師の比率などで入院費はランク分けされています。

玉穂ふれあい診療所は看護師も多くして、診療所は一番高い基準を取っています。それでも1日あたりの入院費は約6,000円です。同じような看護体制の病院で約12,000円、許可された緩和ケア病棟で37,800円です。

ちなみに、がん終末期の患者さんが在宅で医学的管理を受ける、在宅末期総合診療料は、麻薬などの高額なくすりを院外初号で別にして、1日あたり14,950円です。診療所へは入院よりもはるかに高く設定されています。

緩和ケアでは人手はたくさん必要ですが、手術や検査など医療費算定の元となる医療手技はあまり必要ありません。ですから緩和ケア病棟に包括で（まるめで）このような高い入院費が設定されています。

有床診療所での緩和ケアは、人手は同じようにかかりながら、検査や手術などもなく、一般病床と同じ計算ですからますます経営困難（大幅の赤字）ということになります。

私たちは在宅医療を大切にしています。しかし、自宅での療養が困難になった時、自宅に近い有床診療所が必要なのです。在宅と入院を有機的に結びつける医療を実践する上で、玉穂ふれあい診療所が必要と考えています。

経営的に大変なことは前から分かっていました。でも、玉穂ふれあい診療所のような入院施設を必要としている人がいるから、思い切って踏み出しました。

必ず世間が認め応援してくれるはずだと信じています。医療制度も変わると思っています。

こうした医療活動は一医療機関だけでできるものではありません。多くの市民の方々の協力の下に共に支えあって初めてできるものです。制度的に経営が困難な有床診療所だからこそ、より一層市民の支援が必要なのです。

市民の皆さまの支えなくしては、私たちはこの事業を続けていくことはできません。

ボランティアとして、あるいは募金活動で、
あなたにできることで私たちの医療を支えて下さい。
よろしく願いいたします。

DPCホスピス支援の会の会員、ボランティアを募集しています。

— MEMO —

医療法人 どちらペインクリニック

玉穂ふれあい診療所

〒409-3815 山梨県中巨摩郡玉穂町成島 2439 番 1

TEL055-278-5670 FAX055-278-5671

<http://www.dpc-hos.or.jp>